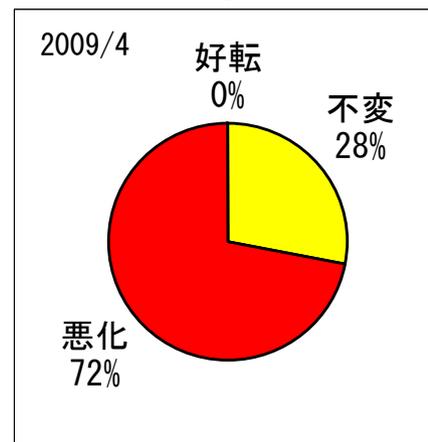
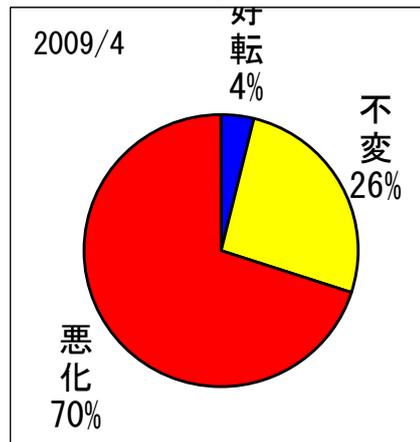
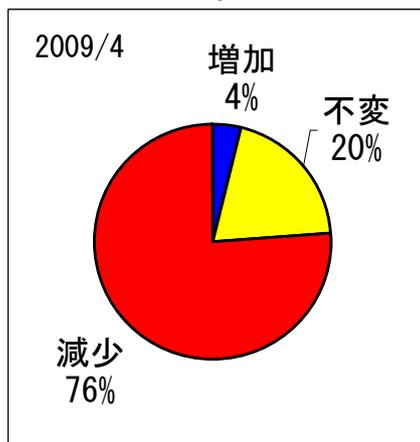
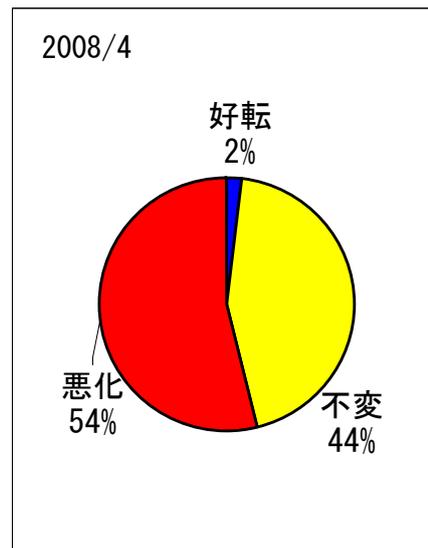
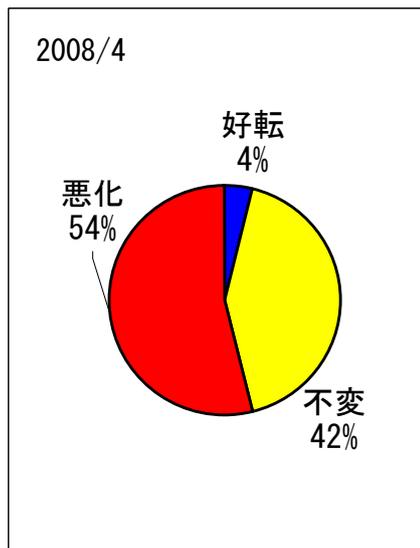
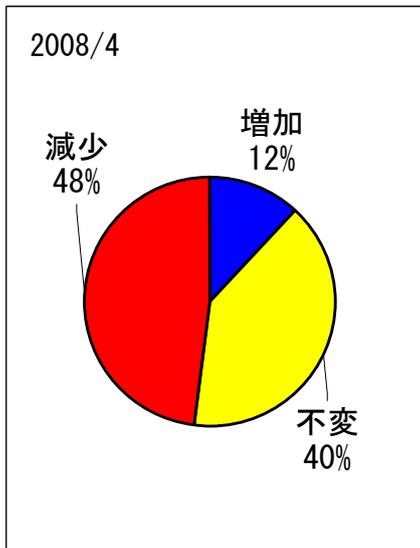


# データから見た業界の動き (平成21年4月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	08/4	09/3	09/4	08/4	09/3	09/4	2008/4	2009/3	2009/4
売上高	-55	-70	-60	-23	-83	-80	-36	-78	-72
収益状況	-60	-55	-60	-43	-70	-70	-50	-64	-66
景況感	-60	-75	-70	-47	-73	-73	-52	-74	-72

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の4月の景況は、全業種のD I値では、売上高-72（前年同月比-36）、収益状況-66（前年同月比-16）、景況感-72（前年同月比-20）とD I値は極めて低い水準で推移しており、極めて厳しい新年度のスタートとなった。

業種別では、製造業のD I値が、売上高-60（前年同月比-5）、収益状況は-60（前年同月比±0）、景況感-70（前年同月比-10）。

非製造業のD I値では、売上高-80（前年同月比-57）、収益状況-70（前年同月比-27）、景況感-73（前年同月比-26）となっている。

連絡員からの報告でも前月に引き続き「受注の確保が困難」「仕事の減少」「売上減少」などが、業界を問わず共通したキーワードとなっており、これによる雇用調整や業者間における競争激化など、それぞれに及ぼす影響と問題が進展している。

景気回復に向けた明るい材料が見あたらぬ現状で、中小企業には、この難局を乗り切るための手腕が問われている。

## ■ トピックス

今回は、「組合や組合員企業の課題解決に向けて新年度検討している取り組み」について聞いた。報告では、低迷する経済情勢を反映してか、課題に対して即効性が見込める研修や施策活用に関連した実施計画が目立っている。主な取り組みの内容は次のとおり。

- 食料品（洋菓子製造）／今後の市場として中国北京への視察研修を予定。
- 電気機器／助成金事業で個々の企業のパンフレットを作成、受注の確保に利用予定。
- その他(貴金属)／組合では「組合問題検討委員会」を発足させ、今後の方針を協議して行く。
- 卸売（宝飾）／ジュエリーブランドKOO-FUの国内販売の強化、来年は輸出販売を目指す。
- 小売（SC）／当SCテナントへの接客、店作り等のトータル的な教育指導。5月より毎月1回専属講師による、全13回の教育研修カリキュラムをスタート。
- 小売（水産物）／甲府市役所と地方市場への移行に伴う種々の事業計画のフィージビリティスタディ（実現可能性の検討）
- 小売（石油）／全国石油協同組合連合会が補助事業として実施する「高度化相談事業」を実施予定。
- 商店街／キャラクターを商店街の顔にしてのPRを計画中。
- 建設（住宅関連）／一般顧客に対し家造りセミナーを開催。FPを活用し潜在客の掘り起こし。
- 建設業（型枠）／政府による緊急支援対策の活用と社会保険労務士等専門家による勉強会。
- 運輸（トラック）／雇用調整助成金について、社会保険労務士による講習会等により周知を図る。省エネ運転等について、専門研修施設を活用した実務研修会の実施。

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食料品（水産物加工）／消費低迷により百貨店、スーパー向けが低調。又、婚礼用食材についても組数の減少、地味婚の流れにより低調。
- 食料品（洋菓子製造）／ブランド力のある大手のOEMは好調であったが、自社ブランド製品及び輸出が低迷し、全体売上は前年並にとどまった。
- 食料品（製麺）／原料価格は、値下がり傾向にある。安定した製造を心掛けている。
- 食料品（菓子）／催事が多く、それに加えて定額給付金もと期待していたが、売上は今ひとつ。
- 食料品（ワイン）／昨年はブドウが不作で、ワインの生産量が減少した影響もあり、ここにきて売上高が減少。一方、売れ行きの格差があり、売り切れのワイナリーもある。
- 繊維・同製品（織物）／服地、見本反はかなり注文があったが、本番の引き合いが遅れている。ネクタイはクールビズの流れで多くの織機が停止中。傘は全体的に忙しい。
- 木材・木製品製造／平成20年度は市による木材の需要が多く、概ね順調に推移したが、新年度の需要の目処は立っていない。
- 紙・紙加工品／原材料は円高もあり下落しているが、底打ちして6月以降上昇する見込み。重油は上昇に転じている。需要は総じて停滞。
- 印刷／インターネットの普及による印刷物の減少もあるが、景気の悪さが当業界の仕事の減少にも大きく影響している。
- 窯業・土石（砂利）／ほとんどの組合員が先行に閉塞感を持っている。景気回復に期待をしつつ、企業トップの手腕が問われる局面が続き厳しい新年度となりそう。
- 窯業・土石（生コン）／4月も昨年より出荷が落ちた。5月、6月も昨年より10%近く落ちると予想。秋口からリニア山梨実験線が動く。これにより峡東地区に大量打設が出てくるので組合でどう対応するか検討中。
- 鉄鋼・金属／取引先の在庫調整が6月末にほぼ終わる予定であるが、未だに仕事量が増える状況になく、引き続き雇用調整助成金の申請を行って行く見込み。
- 一般機器／毎月毎月悪化の度合いが増している。雇用減少、休日増加。
- 電気機器／組合員間では、出勤調整に取り組み、助成金の援助を受ける話題が主である。受注は一過性。組合員間で情報交換し、模索しながら受注の確保に努めているが、不況下では非常に困難な状態にある。

## ■ 業界の声

### ■ 非製造業

●卸売（宝飾）／景気の悪化、生活に対する不安感、個人消費の減少など販売減少の原因が重なっている。各社とも急激な売上ダウンの対応に苦慮しているが、今後在庫を減らすことや経費を下げる努力を進めることが必要。

●小売（SC）／4月前半の売上は、非常に厳しかった。郡内地域に食品スーパーの新規出店があり、また商圈の広域化に伴い、離れた商圈の相次ぐ商業集積施設の出店も影響が出ている。飲食関係の売上が厳しい状況。4月後半GWも目立った動きがなかった。

●小売（食肉）／大手スーパーの相次ぐ安売りに押され、売り上げ、客数共に減少。定額給付金が支給された後半はやや持ちなおしたが、GWをひかえて消費は軟調。

●小売（水産物）／暖かくなり、需要が増すと予測もあったが、依然として不況が続いている。4月末には新規大型店が2店舗オープンするため数ヶ月は業績は低調に推移するものと考えられる。

●小売（電機製品）／5月15日スタートの「エコポイントの活用によるグリーン家電普及事業」だが、消費者からの相次ぐ質問に対し、省庁へ問い合わせたが、回答は不明の状況。量販店はすでに先取りセールを開始し買い控えにならないよう努力しているが、地域の小売店は、先取りを仕掛けるような体力はない。しかし、「エコポイント」に期待したい。

●小売（事務機文具）／仕事量の減少による業者間の競争激化、価格破壊が起きている。通信販売の中のネット販売価格の暴落や販売チャンネルがホームセンターなどと広く、経営は益々厳しくなると思われる。

●小売（石油）／4月は元売各社が原油の高騰と需要の増加により4円程度の値上げを行ったため各SSも値上げを実施した。

●商店街／郊外の商業集積施設のオープンで業界全体が売上減少傾向にあり。不況により高級品中心に売れ行き悪し。

●宿泊業／依然として景気低迷により旅行客、出張宿泊者の減少が続いている。4月初旬の桜の時期は例年観光客が多いが、景気の影響か例年に比べ売上が落ちた。雇用不安等から旅行者数が減少。海外旅行者も減少している。

●美容業／美容室への来店客はカットのみのお客が多く、基本メニューに何かを組み合わせる顧客が依然少ない。客単価が低下している。高単価のパーマ、エクステ等は少なくなっている。景気回復にはまだまだ時間がかかりそう。

●自動車整備／回復の兆し無し。自動車関係税減免措置施行による事務の繁雑化が見られる。

●建設業（総合）／建設業界はそのほとんどを公共事業に依存しており、年度初めには発注量が少ない。二次補正も時期がずれると経済効果は薄くなると思われる。

●建設業（型枠）／小さな民間工事や木工工事はあるが、大きな物件は全くなく、現状で物件の引き合いがない状態であり、仕事のない状態が続くと思われる。

●建設業（鉄構）／景気はどん底の状態にあり、受注残のない企業もあり、实体经济の落ち込みも非常に激しい。鉄骨価格は物件数の減少から受注競争により、加工賃の最低ラインは50,000円/トイであるが、直近では45,000円でも受注できず30,000円を割り込む状況も出てきており、資金繰りのための採算割れ受注の弊害が出ている。

●設備工事（電気工事）／20年度期末の工事も終了し、新規の受注見通しが立たない。電気工事業界も高齢化が進み新分野への進出もままならない。新規事業の獲得には情報収集が必要となり、インターネットを使えない事業主は厳しい。

●設備工事（管設備）／水道局工事の減少により厳しい年度初めとなっている。

●運輸（タクシー）／歓送迎会のシーズンであったが経済全体の冷え込みのせいか需要は少なく、売上は伸びなかった。4、5月の甲府善光寺の御開帳もあまり期待できない状況。

●運輸（バス）／燃料代が徐々に上がりつつある。

●運輸（トラック）／製品輸送が昨年に比べて極端に減少している。例年4月は3月期決算後の月で、メーカーの工場出荷が少ない月だが今年はまったく出荷の無い日が多くなっている。

●その他（介護）／4月1日より介護報酬改定があった。基本は、①介護従事者の人材確保・処遇改善。②医療との連携や認知症ケアの充実。③効率的なサービスの提供や新たなサービスの検証。であり、それを踏まえていくつかの単価アップとなった。今後の動向を注視。